

科学的社會認識を育てる授業研究

I 主題設定の理由

社会科で指導する内容は、社会認識である。それを科学的に考えていくところに科学的社會認識がある。その過程においては、事実認識・関係認識・主体認識がある。それぞれにどのような資料を使い、どのような手だてをとっていくかが大切である。この認識力を養うことが社会科のねらいの一つである。基礎・基本が習得され、ある単元で学んだことと身につけた認識力が他の単元にも応用できること。このことこそが、科学的社會認識を身につけたということではないだろうか。

II 研究の内容

1 小学校部会

科学的社會認識を育てる授業研究を支える観点として「楽しい社会科授業の創造」「習得型の社会科授業」「資料をいかした社会科授業」「活用型・探究型の社会科授業」の4点を設定した。実践をもとにした研究を進めるために、研究授業における事実をもとに研究を進める。それとともに、各部員が自分の実践や地域の教材について調べたことを持ち寄り報告することで、日々の実践につながられるようにした。

(1) 授業実践研究 (山梨小)

「新しい時代の幕開け～地元出身の根津嘉一郎を通して学ぶ～」

6年 橋本尚一 教諭

(2) 臨地研修 根津記念館 (山梨市), 山梨県立博物館 (笛吹市)

(3) 実践報告

(4) 情報交換

2 中学校部会

科学的社會認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考え研究を進めてきた。

- ・学習課題に主体的に向き合える生徒
- ・追究すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ・自ら、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできる生徒
- ・出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証できる生徒

このことこそが、最終的に公民的資質を持った人間形成につながると考えた。そこで、生徒にとって身近な資料を活用することは、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずであり、それは科学的社會認識を育てるための一つの手段ともなるのだと考えた。

(1) 授業実践研究 (山梨北中)

「あつく三宝を敬え ～十七条の憲法を通して～」

古屋勝之教諭

(2) 臨地研修〔2回〕… 万福寺など (勝沼地区), 牧丘郷土資料館など (牧丘地区)

(3) 各自の授業実践報告

(4) 情報交換

Ⅲ成果と課題

1 小学校部会

- (1) 研究授業では、子どもの実際の反応がみられてよい。臨地研修を教材化し、指導案検討、授業研ということで様々な意見が出て、内容が深かった。
- (2) 研究授業をすることにより、資料の活用方法や授業展開の仕方には、いろいろな考えがあることを学んだ。
- (3) 実際に根津記念館で見学をしたり、県立博物館へ行き見学をしたり、臨地研修をしたことで部員全員が共通認識を持ち授業案作成に取り組むことができた。また、資料発掘という意味でもよかった。
- (4) 根津記念館では学芸員の話聞くことができ勉強になった。これからも臨地研修の機会をどんどん作りたい。
- (5) 各自が同じテーマで授業案を作成したことは、自分のこととして授業の展開を考える機会になったし、互いに学び合う機会にもなった。
- (6) スケジュールに余裕がほしい。授業案の検討をする機会を2回とれるとよかった。
- (7) 冬期の授業研究はなかったが、部員が少ないので仕方がない。部員を増やすことが大切。

2 中学校部会

- (1) 授業研究の実施、臨地研修（2回）、各自の授業実践報告の3本柱で充実した研究を進めることができた。
- (2) 身近な資料を活用して、授業研究を行うことができた。
- (3) 臨地研修ともリンクした授業研究だった。
- (4) 臨地研修を通して、地域の教材を多数見学でき、学芸員からも詳細な説明をいただき、日々の実践に参考になった。
- (5) 先生方の日頃の実践報告から、互いに学び合い、今後に生かせる機会となった。
- (6) 研究テーマや研究内容については、継続し、さらに深めていく。一方で、新学習指導要領に移行したことによる具体的な指導方法を学ぶ機会や生徒のイメージ力の向上にむけた研究など、新しい課題に部会として取り組んでいきたい。

(小学校部長 畠山 忠 八幡小)

(中学校部長 立川慶樹 勝沼中)